■第2小委員会議事録

委員名：寺戸博道委員、和泉育志委員、池澤守委員、佐久間久枝委員、谷田恵一委員

【基本目標1】誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり 評価結果：B

◆施策の方向性1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり 評価結果：B

◆施策の方向性2 地域福祉のニーズキャッチの充実 評価結果：B

◆施策方向性3 福祉サービスの充実と権利擁護 評価結果：B

(意見)

委員：時間帯、停留所やルートについて、ゆータク、ゆーバスの見直しは毎年行っているのか。空白地帯をなくせていない。

委員：以前、バスに生活用品を乗せて販売する例を聞いたことがある。

委員：スーパーが送迎してお客さんを集めるところがある。無料にして道路運送法に影響ないようにしているようだ。

委員：バスだと停留所しか止まれない。規制を緩和してどこでも止まれる事例を聞いたことがある。

委員：権利擁護について、学校で虐待が疑われる事案があった場合は教育委員会に報告することになっている。しかし、報告することによって保護者との関係が悪くなることもある。

委員：高齢者虐待のケースで、家庭内で子どもの虐待が発生している場合がある。本来、世帯を支援しなくてはならないが、家族内関係や学校との関係で子どもの生活に支障出てしまわないか心配になる。

委員：民生委員としては、高齢分野とつながるだけでなく、児童委員として子ども分野ともつながることはできる。喧嘩なのか虐待なのか見分けなくてはいけない。

委員：学校や保育園に通っていれば未然に虐待がわかる場合はある。保育園に通っていない乳児の虐待の把握は今後の課題である。

委員：身障者の子どものいる家庭では、学校でいじめにあったときの兄弟のケアが必要になる。

委員：あすてらすの件数が県内で1位である。

事務局：権利擁護については、あすてらすだけでなく来年度は法人後見制度を考えている。

【基本目標2】誰もが暮らしやすい生活環境づくり 評価結果：B

◆施策の方向性1 生活環境の充実 評価結果：B

◆施策の方向性2 防災・防犯体制の充実 評価結果：B

◆施策の方向性3 地域での居場所づくり、活躍の場づくり 評価結果：B

◆施策の方向性4 地域における見守り体制の充実 評価結果：B

(意見)

委員：西那須野地区で新しく分譲した地域では、地域の横のつながりがそれほどない。民生委員としては、マンションでは玄関までしか訪問できない。災害の面で考えると停電時はエレベーターが止まり、安否が心配になる。

委員：関係を断ちたいからマンションに来た人もいる。

委員：自治会がないので街灯が一切なエリアがある。生活に必要なことは費用負担するが、自治会である必要がないとの意見がある。

委員：育成会がなくなっている地域も出てきている。コロナで行事をやらなくなって、通学班のためだけの地域もある。育成会に入らないと通学班に入れない地域がある。PTA の存続が危ぶまれている地域もある。

【基本目標3】みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり 評価結果：B

◆施策の方向性 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり 評価結果：B

◆施策の方向性2 地域福祉活動の担い手の育成 評価結果：B

◆施策の方向性3 地域でのつながりづくり 評価結果：B

(意見)

委員：地域のつながりが心配されるが、地域の福祉座談会にはそれなりに人が集まっていると思う。

事務局：呼びかければ関心のある人は集まる。その中でいろいろな意見をもらえる。地域住民支え合いを進めてきて、コロナで断ち切れたが、必要性を認識して増えてきたところある。地域の事業を見ると、コロナをきっかけにやらなくていい事業と再開する事業と分かれている。

委員：意見を出し合う会議は、オンラインではやりづらい。研修会で話を聞くだけでは問題ないが。

事務局：社協の塩原地区で活動が低下している理由として、地域性もありコロナが蔓延してしまうとホテル、旅館にお客さんが来なくなってしまうことを心配し、地域の集まりに来なかった、高齢化率が高く動ける人が少なかったと聞いている。また、足、交通問題が課題である。

委員：塩原地区では共同浴場に来られることがお互い見守りになると聞いたことがある。

事務局：他の市町村から引っ越してきた人が、自治会に入ろうとしたら地域に断られたと社協に相談に来たことがある。

委員：ゴミ捨てのために自治会に入ろうとする人もいる。